



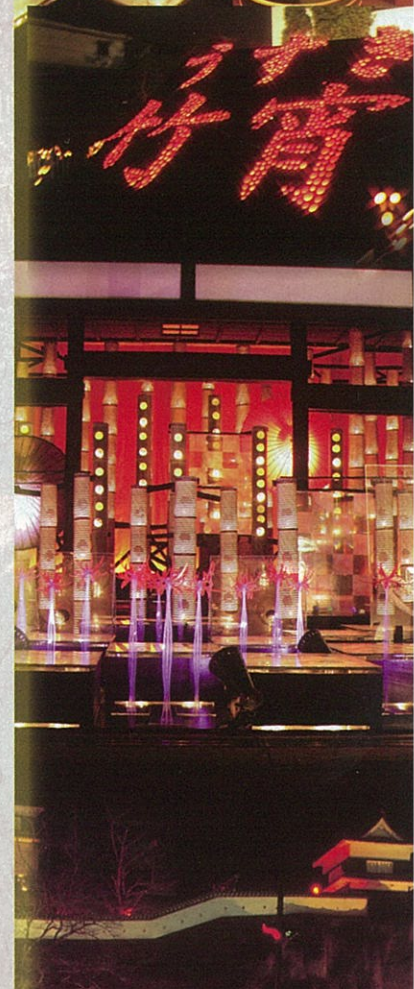
うすき竹宵の由来(真名長者伝説より)

炭焼き小五郎(後の真名長者)の妻、玉津姫との間に般若姫という気高く美しい娘がいました。うわさを聞いた朝廷は、妃として差し出すよう命じますが、長者は拒み、代わりに姫の姿を描いた「玉絵箱」を差し出しました。その絵姿に恋心を抱いたのが橘の豊日の皇子(後の用明天皇)でした。

皇子は姫に逢うため、牛飼いにやつして長者のもとへ来ましたが、やがてふたりは結ばれ、幸せな日々を過ごしますが、朝廷の命により、姫を残し都へ帰りました。その後姫は「玉絵箱」と言うかわいい児を出産しました。やがて姫は生まれたばかりの玉絵姫を残し、都へ上りますが、途中で嵐に遭い、帰らぬ人となってしまいました。

悲嘆のつめる長者は姫の供養のために石仏を彫らせました。それを聞いた朝廷は、年に一度、玉絵箱の里帰りを許しました。秋の陽はとつぷりと暮れ、里人たちは竹に明かりをともし、足元を明るくし、姫をお迎えしました。

「うすき竹宵」は、都より玉絵箱と共に帰る姫の御霊をお迎えする行事です。



臼杵

●詳しいお問い合わせは……

うすき竹宵実行委員会事務局(臼杵市役所産業観光課)

臼杵市大字臼杵72番1

TEL0972-63-1111 FAX0972-64-0203

<URL><http://www.city.usuki.oita.jp> <E-mail>usuki@city.usuki.oita.jp

